

検証実施証明書

武蔵野大学
学長 寺崎 修 殿

貴機関は、国立大学法人動物実験施設協議会
及び公私立大学実験動物施設協議会による
「動物実験に関する外部検証事業」による
自己点検・評価を行い、その結果に対する検証
を本委員会が実施したことを証します

平成28年3月29日

国立大学法人動物実験施設協議会・
公私立大学実験動物施設協議会
動物実験に関する外部検証事業

検証委員会 委員長



動物実験に関する検証結果報告書

（武蔵野大学）

動物実験に関する外部検証事業

（国立大学法人動物実験施設協議会・公私立大学実験動物施設協議会）

平成 28 年 3 月

平成 28 年 3 月 29 日

武蔵野大学

学長 寺崎 修 殿

貴機関における動物実験の実施体制に関して、提出された自己点検・評価結果報告書に対する検証結果を通知します。

国立大学法人動物実験施設協議会・公私立大学実験動物施設協議会
動物実験に関する外部検証事業
検証委員会 委員長



対象機関：武蔵野大学

申請年月日：平成 27 年 7 月 21 日

訪問調査年月日：平成 27 年 10 月 8 日

調査員：國田 智（自治医科大学）

松本 清司（信州大学）

検証の総評

武蔵野大学は、2015 年現在で 9 学部を擁する大学であり、これには薬学部、看護学部、工学部といった理系学部も含まれている。薬学部は西東京市にある武蔵野キャンパスに 2004 年に設置され、学内唯一の動物実験施設は武蔵野キャンパス 8 号館の竣工時に整備されたものである。現在、研究および実習に実験動物を使用しているのは薬学部のみであり、使用する実験動物種としては、げっ歯類とウサギに限定されている。

動物実験施設専任の教員が配置されていないなか、動物実験の適正化を図るべく前向きに取り組んでいる姿勢が十分に認められた。また、小規模施設ながら良好な飼育環境下で実験動物が適切に飼育管理されていた。

一方、規程類は策定されているが、薬学部長への権限委譲や委員会運営における責任体制に不明瞭な点が見受けられた。また、動物実験にかかる 3 委員会が存在し、組織体制が複雑なため、委員会組織と役割について規程と運用面で若干の混乱が認められた。事務系職員を含めた委員会運営体制、記録類の整備を進めるとともに、積極的な情報公開を図られたい。

検証結果

I. 規程及び体制等の整備状況

1. 機関内規程

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合する機関内規程が定められている。
- 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 機関内規程が定められていない。

2) 自己点検・評価の妥当性

機関内規程が定められていることから、自己点検・評価の結果は、妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針に適合する機関内規程が定められている。
- 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 機関内規程が定められていない。

4) 改善に向けた意見

機関の長の責務や権限委譲に関する規定において、責任体制に一部不明瞭な部分が認められる点については、整理を検討されたい。

2. 動物実験委員会

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。
- 動物実験委員会は置かれているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験委員会は置かれていない。

2) 自己点検・評価の妥当性

動物実験委員会が設置されているが、委員会組織が 3 つに細分化されて機能が不明確であり、委員構成についても機能上の混乱が認められることから、「動物実験委員会は置かれているが、一部に改善すべき点がある。」とする。

3) 検証の結果

- 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。
- 動物実験委員会は置かれているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験委員会は置かれていない。

4) 改善に向けた意見

学長の諮問機関としての動物実験委員会の位置づけと役割、委員会構成の適正性を明確に示す

ことができるよう、委員会組織を機能に基づいて再編するとともに、委員構成については基本指針への適合性や学部・施設等の運営組織からの独立性も考慮して適正配置を図られたい。

3. 動物実験の実施体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。
- 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験の実施体制が定められていない。

2) 自己点検・評価の妥当性

全般的には動物実験の実施体制が適正に整備されていることから、自己点検・評価の結果は、妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。
- 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験の実施体制が定められていない。

4) 改善に向けた意見

動物実験計画書の様式は必要要件を満たしているが、人道的エンドポイントや安全管理上の注意を要する特殊実験区分について具体的な内容を的確に記載できるような工夫が望まれる。

4. 安全管理をする動物実験の実施体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- 該当する動物実験の実施体制が定められている。
- 該当する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 該当する動物実験の実施体制が定められていない。
- 該当する動物実験は、行われていない。

2) 自己点検・評価の妥当性

遺伝子組換え生物や病原体の使用等を含む、安全管理をする実験を実施するための安全管理規程や実施体制が適正に定められている。よって、自己点検・評価の結果は、妥当である。

3) 検証の結果

- 該当する動物実験の実施体制が定められている。
- 該当する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 該当する動物実験の実施体制が定められていない。
- 該当する動物実験は、行われていない。

4) 改善に向けた意見

特になし。

5. 実験動物の飼養保管の体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

薬学部棟内に学内唯一の小規模な共同利用実験動物飼養保管施設を保有しており、実験動物管理者の配置、飼養保管手順書の整備、逸走時や緊急時の対応を含めて適正な飼養保管体制が整備されている。よって、自己点検・評価の結果は、妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

特になし。

6. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

意見

特になし。

II. 実施状況

1. 動物実験委員会

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、適正に機能している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

動物実験委員会の活動全般については、動物実験計画の審査等の機能を果たしており、議事録等によりその活動が記録、保存されていることから、自己点検・評価の結果は、妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針に適合し、適正に機能している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

メール審査に関して、その手順および記録方法を確立するとともに、事務担当者の関与を含めた委員会運営体制の強化や記録内容の充実が望まれる。

2. 動物実験の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

動物実験の全般的な実施状況としては、計画書の承認、終了報告、実施結果の自己点検が行われており、自己点検・評価の結果は、妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

動物実験計画書は毎年度の更新制であるが、継続課題の場合に実施状況の経過把握が行われていないため、実施結果報告書の提出を年度ごとに求める対応が望ましい。

3. 安全管理をする動物実験の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 該当する動物実験が適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。
- 該当する動物実験は行われていない

2) 自己点検・評価の妥当性

遺伝子組換え動物の使用、遺伝子組換えウイルスベクターの動物接種、CT撮影等の安全管理をする動物実験が実施されているが、関連委員会による把握、管理が適正に行われており、事故等の発生もない。よって、自己点検・評価の結果は、妥当である。

3) 検証の結果

- 該当する動物実験が適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。
- 該当する動物実験は行われていない

4) 改善に向けた意見

特になし。

4. 実験動物の飼養保管状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

マウス、ラット、モルモット、ウサギといった小型実験動物の飼養保管が、適切な施設、環境と手順で行われており、飼養保管施設ごとの自己点検も実施されて問題も発生していない。また、毎月の使用ケージ数の把握や屠体廃棄時の頭数の集計、その他の作業・点検記録も適正に実施されていることから、自己点検・評価の結果は、妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

飼養保管状況の正確な把握のため、特定日の飼養頭数の集計についても検討されたい。

5. 施設等の維持管理の状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

飼養保管施設は、実験動物管理者の監督下で、業務委託会社の社員 2 名によって実験動物の飼育管理とともに施設・設備の維持管理と記録が手順書に従って適切に実施されている。施設管理上の大きな問題も発生していないことから、自己点検・評価の結果は、妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

飼養保管状況の自己点検や動物実験委員会による視察も行われているが、委員会視察時の記録には、写真の添付やチェックシートの活用などの工夫を検討されたい。

6. 教育訓練の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

学生実習に先立って、動物実験倫理の講義も行われており、自己点検・評価の結果は、妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

法令・機関内規程の周知を含む初回教育と、飼養保管・安全管理・施設利用を含む年 1 回の再

教育が教職員と研究室配属学生を対象に実施され、記録が保存されている。教育訓練の内容については、特に苦痛度評価や苦痛軽減方法など 3R の啓発・実践にかかる内容を十分に盛り込むことも今後は検討されたい。

7. 自己点検・評価、情報公開

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

平成 25 年度より自己点検・評価を実施しているが、その結果は情報公開されていない。また、情報公開項目は機関内規程類と委員会構成のみで、飼養保管状況や動物実験の実施状況、施設情報、教育訓練の実績などに関する情報は公開されていない。よって、自己点検・評価の結果は、妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

透明性の確保や説明責任の観点から、自己点検・評価報告書はじめとする多くの項目について、積極的に情報公開を進められたい。

8. その他

(動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果)

意見

特になし。